

第1学年生活科学習活動案

日時 平成16年10月26日(火) 5校時
児童 1年2組 男16名 女16名
指導者 千葉 真名
場所 1年2組ワークスペース

- 1 小单元名 「は や み で あ そ ぶ」
(大单元名 「すいすいさわやかきもちがいいね」)

2 単元の目標

◎ 主目標

公園や学校のまわりで秋を探したり調べたりするとともに、友達と協力していろいろなものを作ったり、作ったもので遊んだりして、季節の変化に関心をもつことができる。

○ 観点別目標

《生活科の関心・意欲・態度》

- ・ 秋の自然に関心を持ち、友達と楽しく遊ぼうとしている。

《活動や体験についての思考・表現》

- ・ 秋の自然を使って遊びを工夫したり、自分の思い、発見、気付きなどを会話、絵、文などで表現したりすることができる。

《身近な環境や自分についての気付き》

- ・ 自然を使って友達と一緒に遊ぶことの楽しさや、自然の移り変わりについて気付いている。

3 子どもと単元について

- (1) 子どもたちは、これまで、「あさがおをそだてよう」の栽培活動を行ってきた。その中で、自分自身で植物を育てることにより、日々の成長の変化に驚きを感じたり、親しみを感じたりすることができた。中には、欠席した友達の代わりに水遣りをするなど、植物の生命を大切に作る気持ちも育ってきている。

また、春には「ぼかぼかのはらにとびだそうよ」の学習で、岩手公園や校地内の南芳園で遊んだり、中津川原の動植物を見つけたりする活動を行った。夏には、「きらきらおひさまげんきいっぱい」の学習で、水や土、砂を使って遊んだり、草花を使って遊んだりする活動を行った。さらに、秋の生活科校外学習では、小岩井農場へ行き、羊などの動物と触れ合う活動を行った。はじめは、どのような遊びをしたらよいか戸惑う子どもも見られたが、遊び方を提示することによって活動を始めたり、友達に遊び方を尋ねたり教えたりする姿も見られるようになった。

普段の子どもたちの様子を見ると、なかなか友達と関わりをもとうとしない子どもも、外で友達とボール遊びに熱中する子どもの影響もあり、徐々に遊びの中に加わることができるようになってきている。また、草花遊びなど自然の中での遊び方について、これまでの学習を通して興味・関心をもち始めている。

- (2) 本单元「すいすいさわやかきもちがいいね」は、公園や学校のまわりで秋を探したり調べたりするとともに、友達と協力していろいろなものを作ったり、作ったもので遊んだりして、季節の変化に関心をもつことをねらっている。

小单元の「あきのみち」では、春に岩手公園へ行くために通った道(中津川の川原)を春の様子を思い出させながら歩き、秋の自然の様子に気付かせていく。また、「のはらのようす」では、岩手公園の秋の樹木、草花、虫などの自然の中で遊んだり観察したりすることによって、季節による自然の変化に気付くような活動を行う。「あきのむし」では、虫の鳴き声に耳を傾けながら虫探しをしたり、虫の種類によってすみかや食べ物などが違うことを調べたりしながら、虫からも秋を感じ取ることができるようにする。これらの活動から、本小单元「は や み で あ そ ぶ」への意欲につなげていきたい。ここでは、校地内の南芳園で秋の自然を感じ取らせながら、思い切り遊ぶ活動を行う。その後、木の実や落ち葉を集め、おもちゃや飾りを作ったり遊んだりする活動を行う。このとき、遊び方や作り方を提示し、活動の場を設定することにより、自然物で遊ぶ方法を体験から理解させたり、楽しさを体感させたりしたい。また、この経験を普段から親しく関わりを持つ兄学級の6年生にカードや作品などによって伝える活動を行うことにより、これ

までの秋との関わりを振り返ることも取り入れたいと考える。

このように、自然とさまざまな方法でふれあうことによって、自然を使った遊びの楽しさや季節の移り変わりに気付くことができるとともに、活動を通して、友達や上級生とも適切に接することができる子どもを育てていきたい。

4 学習指導計画

(1) 全体計画 (26時間)

小単元	目標 (○) 及び主な学習活動	時間
あきのみち	○ 岩手公園までの道を春との違いに気付いたり、草花や樹木などの自然の中から秋を見つけようとしたりすることができる。 1 春に歩いたときのことを思い出し、今はどうなっているかを話し合う。 2 秋の道を歩きながら、春との違いに気付く。	2
のはらのようす	○ 岩手公園で秋を身体全体で感じ取り、秋の季節感を味わうことができる。 1 岩手公園の変化について予想したことと照らし合わせながら、秋さがしをする。 2 秋の岩手公園の自然で遊ぶ。	4
あきのむし	○ 虫探しの活動によって、秋の虫に関心をもち、種類や生活について気付いたり調べたりすることができる。 1 秋の公園で鳴き声に気を付けながら虫探しをする。 2 見つけた虫の種類やすみか、食べ物などについて話し合ったり調べたりする。	4
はやみであそぶ	○ 秋の自然を使って遊びを工夫したり、自分の思い、発見、気付きなどを会話、絵、文などで表現したりすることができる。 ○ 自然を使って友達と一緒に遊ぶことの楽しさや、自然の移り変わりについて気付くことができる。 1 秋の南芳園に行き、落ち葉や木の実で遊ぶ。 2 南芳園で落ち葉や木の実などを集める。 3 集めた落ち葉や木の葉を使っておもちゃや飾りを作る。 4 作ったものを見せ合ったり、遊んだりする。 5 自分で方法を決めて、兄弟学級のペア (6年生) に秋で遊んだことを伝える。	10
うきうきふゆやすみ	○ 自分でできる家の仕事があることに気付き、それに取り組んでいこうとすることができる。 ○ さまざまな方法を使って年賀状を作り、新しい年への希望と期待をふくらませるとともに、お互いの作品を交流することにより、新しい技法や工夫に気付くことができる。	6

(2) 小単元計画「はやみであそぶ」(10時間)

主な学習活動	支援 (・) 評価 (◇)	時間
1 学校 (南芳園) で秋探しをし、葉や実で遊ぶことを知る。	・ 春や夏の南芳園の樹木や草花の様子とともに、秋の岩手公園の様子を想起させるとともに、南芳園でどのような遊びをしたいか発表しあい、これからの活動に意欲をもつことができるようにする。 ◇ 南芳園での遊びについて、自分の思いを発表し、これからの活動を意欲的に行おうとしている。 《関》	1
2 南芳園で秋を感じながら遊ぶ。	・ 子どものさまざまな発見を大切にし、それを伝え合って、秋の様子を多様にとらえるようにする。 ・ 遊び方をいくつか紹介し、子どもたちが遊びを広げることができるようにする。	2

	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 落ち葉や木の実などを集めたり遊んだりしながら秋を感じ取ろうとしている。 《関》 ◇ 秋の南芳園の様子を身体全体で感じ取り、樹木、草花などの変化に気付いている。 《気》 ◇ 自分がやってみたいという思いをもって活動できる。 《思》 	
3 南芳園で葉や実を集める。	<ul style="list-style-type: none"> ・ ワークスペースを「あきとなかよしコーナー」にすることを知らせ、落ち葉や木の実を集める意欲をもたせるようにする。 ・ 落ち葉や木の実の色や形に着目して集めることにより、色や形のおもしろさを味わうことができるようにする。 ◇ 落ち葉や木の実の色や形がさまざまであることのおもしろさに気付いている。《気》 	1
4 集めてきた葉や実で、おもちゃや飾りを作って遊ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> ・ ワークスペースに「あきとなかよしコーナー」を設定し、落ち葉や木の実などの材料が自由に使えるようにする。 ・ 子どもたちがどのようなものを作りたいかという思いを大切にしながら、いくつかのおもちゃの作り方を紹介し、多様な活動の場を作るようにする。 ◇ 秋の自然物の特徴に関心を持ち、楽しく作る活動をしようとしている。 《関》 ◇ 秋の自然物を使って、工夫しながら作品を作ることができる。 《思》 ◇ 秋の自然物の色や形を生かしながら、作品を作ることができる。 《気》 	3
5 楽しかった秋を6年生に伝えるために、方法を決めて表現する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ いつもお世話になっている6年生に、楽しかった秋を知らせるといってはっきりとした相手意識をもたせることによって、意欲的に取り組むことができるようにする。 ・ 表現方法については、いくつか提示し、子どもたちが選択して活動できるようにする。 ・ 表現の仕方などについて、子どもたちのよさを紹介し、広めることができるようにする。 ◇ 自分で表現方法を決め、相手意識をもって表現しようとしている。 《関》 ◇ 秋の自然で遊んだ楽しさや気付きなどを、絵や文などで表現することができる。 《思》 ◇ 自然を使って友達と一緒に遊ぶことの楽しさや季節の移り変わりについて気付いている。《気》 	3(本時2/3)

5 本時の指導

(1) ねらい

- ・ 秋の自然で遊んだ楽しさや気付きなどを、絵や文などで表現することができる。

(2) 展開

前時までの学習過程	<p>学習内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 楽しかった秋の遊びを6年生に伝えるための方法を知り、自分で選んで表現に取り組むこと <p>支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 楽しかった秋の遊びを振り返り、その楽しさを、関わりの深い6年生に伝えようと投げかけることによって、活動の意欲をもつことができるようにする。 ・ 表現の方法をいくつか提示し、子どもたちが選択して表現できるようにする。 		
過程	活動の流れ	形態	支援(・) 評価(◇)
導入5分	<p>1 前時までの活動を想起する。</p> <p>2 本時の活動を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content;"> たのしかったあきを 6ねんせいにおしえよう。 </div>	全	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「誰に伝えるか」を確認し、相手意識と意欲をもって取り組むことができるようにする。 ・ 前時の活動で困ったことを発表したり、工夫して表現している子どもを紹介したりすることによって、本時の活動に生かすことができるようにする。
展開35分	<p>3 自分が選んだ方法で表現する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ どんなことを教えようかな。 ・ 発見したことを書こうかな。 ・ 絵は(作品)はどうしようかな。 ・ 6年生のお兄さん(お姉さん)によく分かるか見てね。 	個	<ul style="list-style-type: none"> ・ 秋の自然物を自由に使えるように、ワークスペースにコーナーを設けておく。 ・ 進んで表現したり、自分なりに工夫して表現したりしている子どもの活動をほめることにより、意欲を高め、他にも広めるようにする。 ・ なかなか活動の進まない子どもには、前時に提示した作品の例を示したり、本単元の活動の中で心に残ったことや気付いたことなどを聞き取り、表現につなげることができるように助言したりする。 ・ 早く終わった子どもには、友達と見合うような場を設定する。 <p>◇ 秋の自然で遊んだ楽しさや気付きなどを、絵や文などで表現することができたか。</p>
終末5分	<p>4 本時の学習を振り返り、次時の学習を確認する。</p>	全	<ul style="list-style-type: none"> ・ 友達の作品のよさを認め合うとともに、自己評価をし、成就感をもつことができるようにする。
次時の学習	<p>学習内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 6年生に贈る作品を仕上げ、友達と作品のよいところを交流すること <p>支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ できた作品のよさを紹介し合うことによって、学習の成就感を味わうことができるようにする。 ・ 6年生にどのようなことばを掛けて渡したらよいかを考えさせることにより、上級生との適切な接し方についても気付くことができるようにする。 		

指導計画と具体的評価規準（本小単元の指導計画第5次）

時	関心・意欲・態度	思考・表現	気付き
1	<p>○楽しかった秋の遊びを6年生に伝えるため表現方法を進んで決めようとする。</p> <p>A 提示された表現方法をもとに、自分なりに工夫して表現しようとしている。</p> <p>B 提示された表現方法をもとに表現しようとしている。</p> <p>Bへ向けての支援 どんなことが心に残っているか聞き出し、提示した表現方法で取り組みやすいものを選ぶように声掛けをする。 (活動のようす)</p>		<p>○提示された表現方法からそれぞれのよさに気付く。</p> <p>A 提示された表現方法のよさを自分の表現に生かそうとしている。</p> <p>B 提示された表現方法のよさに気付いている。</p> <p>Bへ向けての支援 経験した遊びを聞き出しながら提示された表現と結び付けて考えることができるように声掛けする。 (活動の様子・作品)</p>
2 本時	<p>○楽しかった秋の遊びなどについて、進んで表現しようとする。</p> <p>A 自分で工夫しながら表現しようとしている。</p> <p>B 提示したものや、友達の作品を参考にしながら表現しようとしている。</p> <p>Bへ向けての支援 どんなことが心に残っているか聞き出し、表現するように声掛けをする。 (活動の様子・表情)</p>	<p>○秋の自然で遊んだ楽しさや気付きなどを、絵や文などで表現することができる。</p> <p>A 秋の遊びの様子や秋の自然について気付いたことをよく分かるように工夫しながら表現している。</p> <p>B 秋の遊びの様子を、選んだ表現方法で表現している。</p> <p>Bへ向けての支援 どんな遊びをしたかを具体的に聞き出し、表現につなげるようにする。 (作品)</p>	<p>○友達の作品のよさに気付く。</p> <p>A 友達の作品のよさに気付き、自分の作品に生かそうとしている。</p> <p>B 自分の作品のよさや友達の作品のよさに気付いている。</p> <p>Bへ向けての支援 作品の見方の観点を示し、よさに気付かせるようにする。 (発表の様子・作品)</p>
3	<p>○友達の作品のよさを進んで見つけようとしている。</p> <p>A 見合った友達の作品のよさを複数見つけている。</p> <p>B 見合った友達の作品のよさを見つけている。</p> <p>Bへ向けての支援 作品の見方の観点を示し、よさに気付かせるようにする。 (活動の様子・表情)</p>		<p>○友達の作品のよさに気付く。</p> <p>A 見合った友達の作品のよさや友達の表現から気付いたことを発表したり書いたりしている。</p> <p>B 見合った友達の作品のよさについて発表したり書いたりしている。</p> <p>Bへ向けての支援 作品の見方の観点を示し、よさに気付かせるようにする。 (発表の様子・カード)</p>